

II 部会の実践

1 ESD推進部

(1) ESDカレンダーの見直し

ESDカレンダーとは、甚目寺小学校が取り組むESDの内容を、各学年の学習にどのように位置づけているかを表したものである。ESDを中心に置き、活動を行う上で必要となる資質や能力を育てるために、他教科や特別活動などとの関連を示し、体系的に取り組んでいる。ESDが文字通り持続的な活動となるよう、普段の学習や学校行事との兼ね合いを考えながら、毎年ESDカレンダーの見直しを行っている。

【本年度の各学年のESD活動テーマ】

学年	活動テーマ	学年	活動テーマ
1年	学校周辺や幼稚園・保育園との交流	2年	地域の商店街や施設との交流
3年	地域の福祉	4年	地域の自然環境
5年	地域の産業	6年	地域の文化遺産

また、本年度は、活動の見直しと並行してESDカレンダー内の学習や活動に、対応するSDGsのアイコンを入れるように改善を行った。持続可能な開発目標としての17のゴールと関連付けながらESDを見直すことで、児童の活動に新たな視点や価値観を与え、ESDを意欲的に推進できるのではと考えた。

平成30年度ESDカレンダー		第4学年												あま市立甚目寺小学校				
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
教科・道徳	(国語)	よけい話の話し合い	新聞を作る															
	(社会)	住みよけ町をつくる																
	(理科)	あたたくくなる																
	(体育)	国語																
生活・総合		ふるさと甚目寺「環境にやさしい町づくり われら環境調査隊！」																

【第4学年のESDカレンダー（抜粋）】

(2) 掲示板の工夫

ESDの活動が単発にならないよう、児童が活動に見通しをもち、また、今までの活動の様子を振り返ることができるように、ESD掲示板を工夫した。

あらかじめ、各学年の1年間の活動をすごろくのように掲示板に示し、それぞれの活動ごとに、児童の様子や活動の振り返りをすごろくの駒が進むように掲示することとした。児童がESDの1年間の流れや、これまでの学習が次にどうつながっていくのかを認識できるようにすることで、目的意識をもって活動に取り組めると考えた。



【ESD掲示板】

2 授業づくり部

(1) ESDとの連携を図った授業づくり

ESDとの連携を図った授業づくりとして、単元の流れや1時間の授業を考えていく上で、ESDの要素（「持続可能な社会づくり」の構成概念）や育みたいESDの能力/態度（ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度）を意識し、指導過程の中でESDの能力/態度の育成に関わる学習活動を設定し、指導案に明記している。また、各教科等の授業づくりを進める上で、各教科等のもつ特性とESDからみた役割も意識することにした。

【ESDを意識した授業づくり】

本時のESDの要素	連携性	本時のESDの能力/態度	コミュニケーションを行う力
4 本時の目標 (1) 安全な飲料水を大切に使うために、地域社会の一員として自分たちにできることはないか、関心をもち、意欲的に追究している。 (社会的事象への関心・意欲・態度) (2) 安全な飲料水をつくるために必要な資源には限りがあることから、水の無駄遣いを見直し、有効に使うことが大切であることを自分の生活と関連づけて考えることができる。 (社会的な思考・判断・表現)			
5 人権教育上の観点 ・ 話し合いの場面において、自分の意見とは異なる仲間の考えも認め、相手の考えを共感的に受け入れる力を育てる。 (視点②：自己表現力の育成)			

【ESDからみた教科等の関連】

特質	教科等	ESDからみた役割
生き方の育成	生活	身近な多様なものや人に関心をもち向かう姿勢
	総合的な学習の時間	困難な問題の解決に集団で粘り強く取り組む姿勢
人間性の育成	特別活動	様々なかかわりを受け入れて生きるための判断と行動
	道徳	様々なかかわりの中で生きるための心情と心構え
表現の方法	音楽	音表現による情報の理解と的確な表現の方法
	図画工作	造形表現による情報の理解と的確な表現の方法
	保健・体育	健康の保持・増進と安全の確保の視点と方法
	家庭	安全で豊かな生活をするための方法
内容の把握	社会	社会リサーチの手順と方法の習得
	理科	自然探求の手順と方法の習得
学習の用具	国語	日本語による情報の解釈と表現方法の習得
	算数	論理的な見方・考え方とその表現方法の習得
	英語	英語による情報の解釈と表現方法の習得

(2018年 中部大学客員教授 中島康博氏による)

(2) 本年度の取組

授業づくり部会では、主に研究仮説Ⅰについて授業で手だてを講じ、検証を行った。各教科の授業内で、「聞く・話す・話し合う能力表」を基に、双方向のやり取りを目指した授業を実践した。また、振り返り活動を充実させ、未解決な部分や追究したい内容、よいと思った友達や先生の言葉や見方・考え方に注目させていき、問題意識をもち、主体的に学ぶ子どもの育成を図った。

【本年度の主な授業実践】

学年	教科	単元・題材名	本研究における授業のねらい
6年	特別な教科 道徳	手品師	モラルドラマを扱った題材で、意見交流する場面を十分に取り、振り返りの場面で友達の意見について学んだことを出し合わせることで道徳的思考力、判断力を高める。
5年	国語科	きいて、きいて、きいてみよう	各授業、単元を通しての振り返り活動から、できたこと、改善すべきところを認識させ、夏休みの取材活動へつなげる。
4年	社会科	命とくらしをささえる水	自分の考えをシンキングツールで明確にした上で、グループ、学級全体での話し合い活動を行う。
3年	特別な教科 道徳	盲導犬たちの声から考える	出前授業で学習したことを振り返り、改めて盲導犬についての問題を考え、今後の福祉学習についての関心を高める。
2年	国語科	こんなもの、見つけたよ	「聞く・話す・話し合う能力表」を基に授業内容を組み立て、効果的な質問の仕方についての理解を深める。
1年	生活科	ひろがれ えがお	家族のためにできる仕事を実践し、取り組んだ内容や気付いたことなどを友達と意見交流し、家庭生活で自分ができることに取り組む意欲を高める。

(3) 研究授業・事後検討会

授業づくり部では、現職教研部とともに、低・中・高学年で授業実践を行い、授業づくり・現職教研部と関係学年の教師で授業研究を行っている。部会で指導案検討を重ねる中で、E S Dの視点に立った学習指導になっているかの確認もなされ、事後検討会で授業をふり返ることで、本校での勤務経験が少ない教員にとって本校の研究について理解を深めるとともに教員の授業力向上を目指している。

3 学校環境部

学習に集中できる環境を目標に、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れながら教室環境のルール作りを行った。掲示物の精選、掲示板の使い方や掲示物の配色などについて学校環境部会で検討を重ね、教室環境の整備を行った。

4 人権教育部

あま市では、教職員の人権教育に対する理解と認識を深め、小中学校における人権教育の推進・充実を目標の一つとして人権教育に関する研究を行っている。本校E S Dは、人権教育を柱にしており、あま市の人権尊重の教育の視点とE S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度を対応させている。人権教育部では、各部と連携し、本校のE S D研究を人権教育の視点から考察し、人権尊重の実践的な行動力へとつなげられるよう取り組んでいる。

5 現職教研部

授業づくり部、E S D推進部と連携して本校の研究の取組を海部地方現職教育研究会等で発信した。

6 行事・指導部

生徒指導にかかわる諸問題について協議するとともに、E S D推進部とともに学校行事にかかわるE S D活動について点検・見直しを図り、生徒指導面を中心に指導内容の周知に努めた。